

「国際語」学習 再考の時

ビジネス

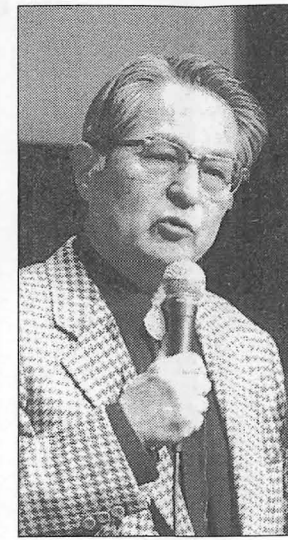
秋谷 ビジネスの世界で英語が必要だと言われ、我々もかりたてられる思いですが、いったいビジネスで必要とされる英語とはどのようなものなのでしょう。

フィールズ 日本人は少し意識過剰のように感じます。スイスのある企業を例にとると、地域的にはフランス語圏、勤める幹部の多くはドイツ系、で社内では使われるのは英語です。彼らにとって英語は「会社で使う言葉」くらいの意識でしかありません。

橋爪 自然科学の分野では、学生も研究者も論文を英語で書き発表することが、すでにあたりまえになっています。でも、大事なのは中身であり、英語はそれを盛る器

基調講演

鈴木 孝夫氏



なぜ英語を学ぶのかという問いに、ある調査では「文化交流のため」との答えが約7割をしめたのですが、果たして英語は異文化理解に役立つのでしょうか。私が学生たちにアメリカについて意見を聞くと、よい点はたくさんあつたけれど、悪い点は何一つあつた。この偏り

リーダー向け教育必要

がどこからくるのか考えてみると、明治維新にまでさかのぼります。

1868年、200余の年を鎖国を解いた日本は、千数百年にわたって受け入れてきた中華文明を投げ捨て、衣食住から

先進国の技術や知識を学ぶことで、日本は大国支配を免れ、国力を伸ばしました。さらに第2次大戦後はアメリカを目標に経済発展に突き進み、いま世界第2の経済大国にまで上りつめたので

かつて私は、アメリカ留学から帰国するとき、弁慶の七つ道具よろしく、最新の録音機やイヤホンを持ち帰ったのですが、今日それは秋葉原にあふれ、欧米人たちは競って購入しています。

この事実が日本の政治家や教育者たちにはまだ気づいていない。英語

成のための選抜的英語教育をプログラムする時がきています。

同時に英語教科書の見直しも重要です。これは翻訳が行き渡りあふれているのに、一般学生が英米文学を学ぶ必要があるのか。また、義務教育の限られた授業時間で美化されたアメリカを学ぶことにはどんな意味があるのか。

それよりも教科書では日本を取り上げ、日本の優れた文化や歴史を世界に紹介することを学ぶべきではないでしょうか。英語学習の最終目的は外国の文化を取り入れることではなく、中・高・大

学生がそれぞれのレベルで日本のことを英語化して外国に発信する、その手段として学ぶのです。そのためには、英和辞典に比べてあまりにも内容が貧弱な和英辞典の見直しも課題です。

いま世界で英語を公用語、準公用語としている国は191カ国中52カ国。英語は、それを母語とする人々の手を離れ、国際管理下に置かれたとみるべきです。欧米にあらがれ、英米人がいるから英語を学ぶのではなく、世界に人がいるから英語を学ぶのだということをお忘れはならないと思います。

「日本人にとって英語とは何か」シンポジウム

ビジネス

秋谷 ビジネスの世界で英語が必要だと言われ、我々もかりたてられる思いですが、いったいビジネスで必要とされる英語とはどのようなものなのでしょう。

フィールズ 日本人は少し意識過剰のように感じます。スイスのある企業を例にとると、地域的にはフランス語圏、勤める幹部の多くはドイツ系、で社内では使われるのは英語です。彼らにとって英語は「会社で使う言葉」くらいの意識でしかありません。



基礎学力の充実から日本語にも相乗効果

橋爪氏

鳥飼氏

私たちが「国際英語」を学ばなければならないのは、世界でも「護送船団方式」などのコンセプトは誇りに感じます。まず、靴を垂れる立場にあるんだという自信と自覚が必要でしょう。

鳥飼 私が教えるクラスで印象的なのがあります。かなり英語力のある学生たちが討論するところ、授業にアメリカの女子学生が飛び入りしたところ、30分もしないうちに彼女一人の独壇場になってしまったんです。

あとで学生たちは「自分たちに足りないのは、知識でも英語力でもない。議論できなかったのは、お客さまの前であまりこまろってはいけないこと



ではないか。ビジネスの世界でも「護送船団方式」などのコンセプトは誇りに感じます。まず、靴を垂れる立場にあるんだという自信と自覚が必要でしょう。

鳥飼 私が教えるクラスで印象的なのがあります。かなり英語力のある学生たちが討論するところ、授業にアメリカの女子学生が飛び入りしたところ、30分もしないうちに彼女一人の独壇場になってしまったんです。

あとで学生たちは「自分たちに足りないのは、知識でも英語力でもない。議論できなかったのは、お客さまの前であまりこまろってはいけないこと

「○○留学」してよかった、ワン！

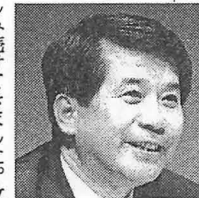
イラスト: 若泉祥子 / The Asahi Shimbun

語学力より中身で勝負

「日本人にとって英語とは」――英語論を正面から取り上げたシンポジウム(主催・大修館書店、朝日新聞社)が、4月1日、東京有楽町の朝日ホールで開かれた。英語を第2の公用語に、という「21世紀日本の構想」懇談会(河合隼雄座長)の提言をきっかけに盛り上がる日本の英語論に「石を投じた」。基調講演では、鈴木孝夫氏が「明治以来の英語教育の見直しを」「日本の国際的存在感が危うい今、リーダのための英語が必要」と刺激的な見解で口火を切った。続くシンポジウムでは、パネリスト各氏が「第2公用語」「国際語」としての英語への期待や課題についてそれぞれの立場から意見を述べて議論が白熱。5時間以上におよぶ討論に、教育関係者など約600人の参加者は熱心に耳を傾けた。(構成・フリーライター 吉原佐紀子、江口信子、安宅左知子/撮影・御堂義典)

出席者

- パネリスト
鈴木 孝夫
慶応義塾大学名誉教授(言語社会学、文化意味論、外国語教育)
- ジョージ・フィールズ**
国際ビジネスコンサルタント(マーケティングリサーチ)
- 鳥飼 玖美子**
立教大学教授(英語教育、通訳・翻訳論)
- イ・ヨンスク**
一橋大学教授(社会言語学)
- 橋爪大三郎**
東京工業大学教授(理論社会学、宗教社会学、現代アジア研究)
- コーディネーター
萩谷順 朝日新聞編集委員



萩谷順編集委員

「日本人にとって英語とは」――英語論を正面から取り上げたシンポジウム(主催・大修館書店、朝日新聞社)が、4月1日、東京有楽町の朝日ホールで開かれた。英語を第2の公用語に、という「21世紀日本の構想」懇談会(河合隼雄座長)の提言をきっかけに盛り上がる日本の英語論に「石を投じた」。基調講演では、鈴木孝夫氏が「明治以来の英語教育の見直しを」「日本の国際的存在感が危うい今、リーダのための英語が必要」と刺激的な見解で口火を切った。続くシンポジウムでは、パネリスト各氏が「第2公用語」「国際語」としての英語への期待や課題についてそれぞれの立場から意見を述べて議論が白熱。5時間以上におよぶ討論に、教育関係者など約600人の参加者は熱心に耳を傾けた。(構成・フリーライター 吉原佐紀子、江口信子、安宅左知子/撮影・御堂義典)

対する意見を在来の友人に求めたりという使い方をしていますね。

萩谷 日本の英語教育に必要なことは何でしょうか？

表で引き出した。それが成功したからこそ、「アジアの奇跡」と呼ばれる経済発展をなし得たのでしよう。

では、今の日本に必要な英語教育は何か。大衆教育となった全国600以上の大学で戦前と

文化の違い知って

必要度、修得に影響

フィールズ インターネットが普及し、街にはコンピュータだらけのネットワークが多数ありますが、そこで本当に役立つ情報を得ているか、は疑問です。

英語教育との関連で

同じ語学教育をするのは無理がある。国際舞台で活躍する人材を育成したいなら、少数のエリートに徹底した教育を行うことが絶対に必要です。

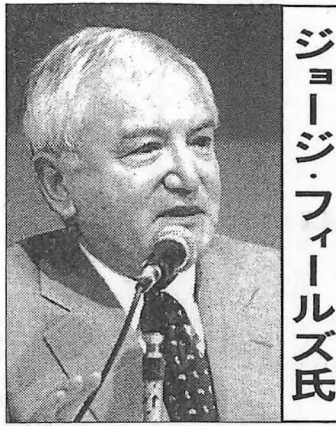
鳥飼 ただ、中学レベルの英語はできた方が便利さ、楽しさが違います。

イ 大衆化には問題がありますが、多くの人に門戸を開放する利点は失いたくない。70歳になる私の母は専業主婦で大変なスーパーウーマンですが、学歴がないことに苦

萩谷 確かに少数のリーダーには高度な英語が必要だが、一方で街で出会った外国人とのコミュニケーションのための英語も必要です。

橋爪 両方なくてはならないし、両立するはず。両方を混同するのが問題です。

フィールズ 外国人とのコミュニケーションの



ジョージ・フィールズ氏



鳥飼 玖美子氏

日本人にとって英語とは何か「シンポジウム」

母語ではない英語を、わざわざ第2公用語にするという議論が出てくる点や、英語教育の過熱ぶりなど、日本と韓国は非常に似ています。

英語がこれほど力をもちようになったのは、英

「戦力」視する動き気になる

語を話す集団が世界で絶大な力をもっており、英語を学ぶことで人々が社会的に有利な地位に立てるからです。人々の欲望をかきたて富を生み出す英語産業の存在もありま

私は工業大学で教えていますが、私の学生の半分は留学生ですし、自然科学の論文は英語で書く

橋爪氏

これが義務づけられています。国際社会である大学では、得意不得意にかかわらず日々英語を使わ

言語巡る政策大きな課題だ

なくてはならないし、もはや英語が公用語というのが実態です。

英語は世界共通語としての地位をますます確立していますが、同時に新たな対立も生まれています。英語を母国語とする国々、英語を公用語とする国々、英語を外国語と

ビジネス英語、受験英語、生きた英語……など日本人はレッチルを張るのが好きですが、こぼれ

鳥飼氏

をトータルにとらえない摩訶不思議な言語観を感じます。また、とかく英語の重要性ばかりが叫ば

主張・交渉の重み見直して

れ、世界の流れとなつていく多文化主義、多言語主義への関心が薄いのを残念。国際語としての英語、という大きな枠組みのなかで議論すべきだと思います。これからの日本人が世界のなかで生きていくには、言葉を使

パネリストの「my一言」

私は戦前の日本、生まれ、家の中では英語、外では日本語を話すという環境で育ちました。その

フィールズ氏

後20年間日本を離れ、戻ってきてみると、日本語は大きく変わってしま

言葉の導入は文化を広げる

どこう、私の子ども時代にはなかった外来語を吸収して自分のものにしていったのです。

「和魂洋才」と言いますが、日本は基本的な価値観を変えずに、外来の文化や概念を取り入れるのが非常にたけている。その点では、アメリカもよ

ポイントには文化、感覚の違いを知ることです。外交の場面では、政治家は自国の言葉で話すのが基本ですから、英語力以前のコンテンツが勝負。日本はコンテンツで負けている。文化・芸術の分野でも発信が少ないですね。

萩谷 コンテンツというのは日本の教育のあり方にかかわることです

橋爪 私は高等学校学力検定試験というものを実施し、それを高校の卒業資格にすることを提案します。そうすれば個人個人の力に合わせた教育が可能になる。

鳥飼 日本人の教師が日本人の生徒に国際語としての英語を教えるには、どんな方法が最善かを考える必要がある。体系的に文字や文法から入るという方法が、日本人に合っているのかもしれない。

フィールズ 目的によって違うでしょう。高度な語学力には文法が必要だが、日常会話なら耳から覚えるのが手取り早いというように。

橋爪 言葉を使うチャンスがないと勉強の意欲を引き出すことは難しい。それをどうアクティビティに教室で実現するかが課題でしょう。

イ 海外からの留学生たちを見ても、欧米から来た人よりアジアから来た人の方が日本語の修得が速い。それは能力の問題ではなく必要性があるからだと思います。